資料1－1

今後を見据えた八王子市の学校教育

令和７年（2025年）５月21日
総合教育会議
学校教育部

１ 趣 旨

市立学校では、義務教育９年間を通して、「主体的に社会に参画する力」の育成や「自立」を促す教育の実現に向け全校でキャリア教育に力を入れている。

これまでのキャリア教育では、職業観や勤労観の育成、進路指導、地域との連携を重視してきた。

しかしながら、現在の子どもたちを取り巻く教育環境は複雑化しており、今後、子どもたちが、コミュニティ（地域）の中で生きていく力を習得するためには、子どもたちがキャリア教育を通して得た知識や経験をもとに、新たな価値を創造し、社会の創り手となる人材として必要な資質・能力の育成が不可欠である。

今後、教育委員会としては、キャリア教育の充実に向けた市立学校の環境整備が必要であると考えている。

２ キャリア教育の充実に向けて

「実社会と接続する学びを通して『自分ごと』になる社会的な自立」を促す教育の実現

<u>コミュニティ（地域）の中で生きていく力の習得</u>

①他者への信頼感

②社会生活を営む上で不可欠な知識及び技能

３ これまでの八王子市のキャリア教育

- 小中一貫教育グループを軸として義務教育９年間を見通した体系的・系統的なキャリア教育の推進

  → 教育課程への位置付け

- 子どもたちが、主体的に学ぶ力を育み、自己実現するための「はちおうじっ子キャリア・パスポート」の活用

  → 家庭との共有

- 職業講話や職場体験活動を通じて、子どもたちが社会の一員としての自覚や責任を持ち、社会生活に必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献する意欲や態度の育成

  → 八王子青年会議所・東京八王子南ロータリークラブとの連携

４　今後の八王子市のキャリア教育

☆特に、児童・生徒数の減少が著しい地域においては

多様性の理解と尊重　→　”個”の自立

「自分はどのように生きていくのか」

→何を仕事としていくのか

地域コミュニティの維持・発展

4　今後の八王子市のキャリア教育

☆地域の子ども地域で育てるという観点から

一定規模の集団の中で（多様性）、

自分は何をなし（自立）、

いかに住みやすい環境を作るか（社会の一員）

↓

これまで以上に実践的なキャリア教育が必要

児童・生徒が一定規模の集団の中で学ぶことが重要

5　義務教育9年間の系統的なキャリア教育

☆　各学校の教育課程に位置付ける

① 農業体験から科学的農法知識・技能の習得

② ものづくり体験から科学・技術・工学・教養・数学的知識による価値・創造

児童・生徒が自ら育った地域の強みを身に付け、それを自らのキャリアとする

6-① 農業体験から科学的農法知識・技能の習得

- 子どもたちが地域に根差した農作物の栽培から収穫、販売まで携わる

→ 地域の農家の方々の知見や経験に基づく専門的な支援

→ 学園都市としての力を活かした大学等と連携した科学的な知見や技術指導

農業体験を通したキャリア教育の実践モデル地区（案）

恩方地区の農業

川口地区の農業

加住地区の農業

6-② ものづくり体験から科学・技術・工学・教養・数学的知識による価値・創造

- 子どもたちがものづくり体験を通じて創造力や協力の大切さを学び、成長するための貴重な機会を得る

→ 八王子の企業の強みとキャリア教育を結び付ける

  - 精密加工や電子部品の製造など高度な技術力を有し、産官学が連携した製品開発
  - 地域密着型の経営姿勢と柔軟な対応力により、独自の技術革新

ものづくり体験を通したキャリア教育の実践モデル地区（案）

みなみ野地区の産業

南大沢地区の産業

横川地区の産業

6-③発展的な視点として

- 子どもたちがキャリア教育を通じて得た知識や経験をもとに、新たな価値を創造し、社会の創り手となる人材として必要な資質・能力を育む

発展的な視点として　→　STEAM教育の手法を用いる

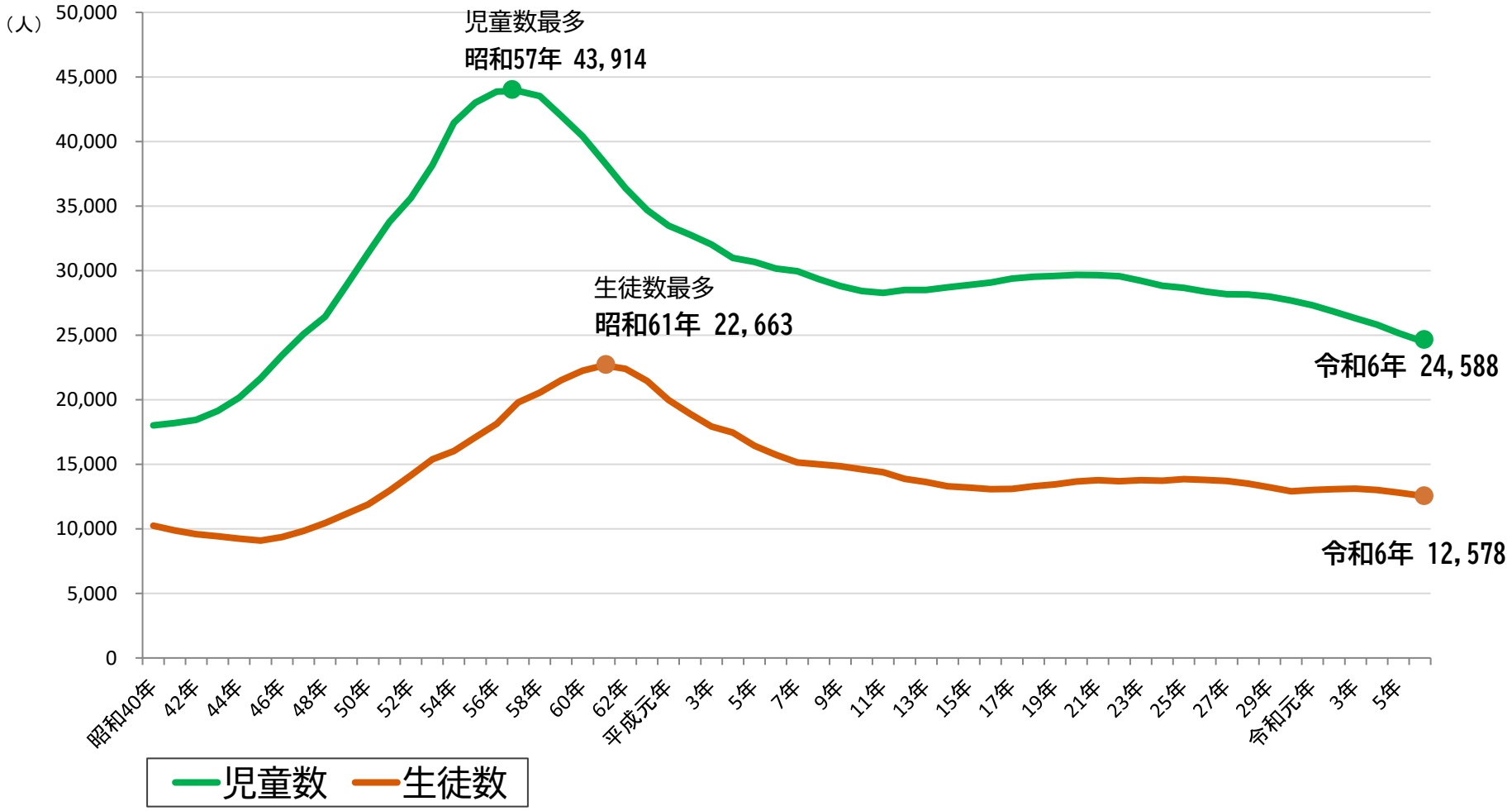
→　各教科で共通する思考の視点や考え方を基にしたSTEAM教育（科学・技術・工学・一般教養・数学）

- 地域の課題に対し、自ら解決策を立案し、具体的に解決できるようにする

STEAM教育重点開発校の設置

7 現状(児童・生徒数の推移)

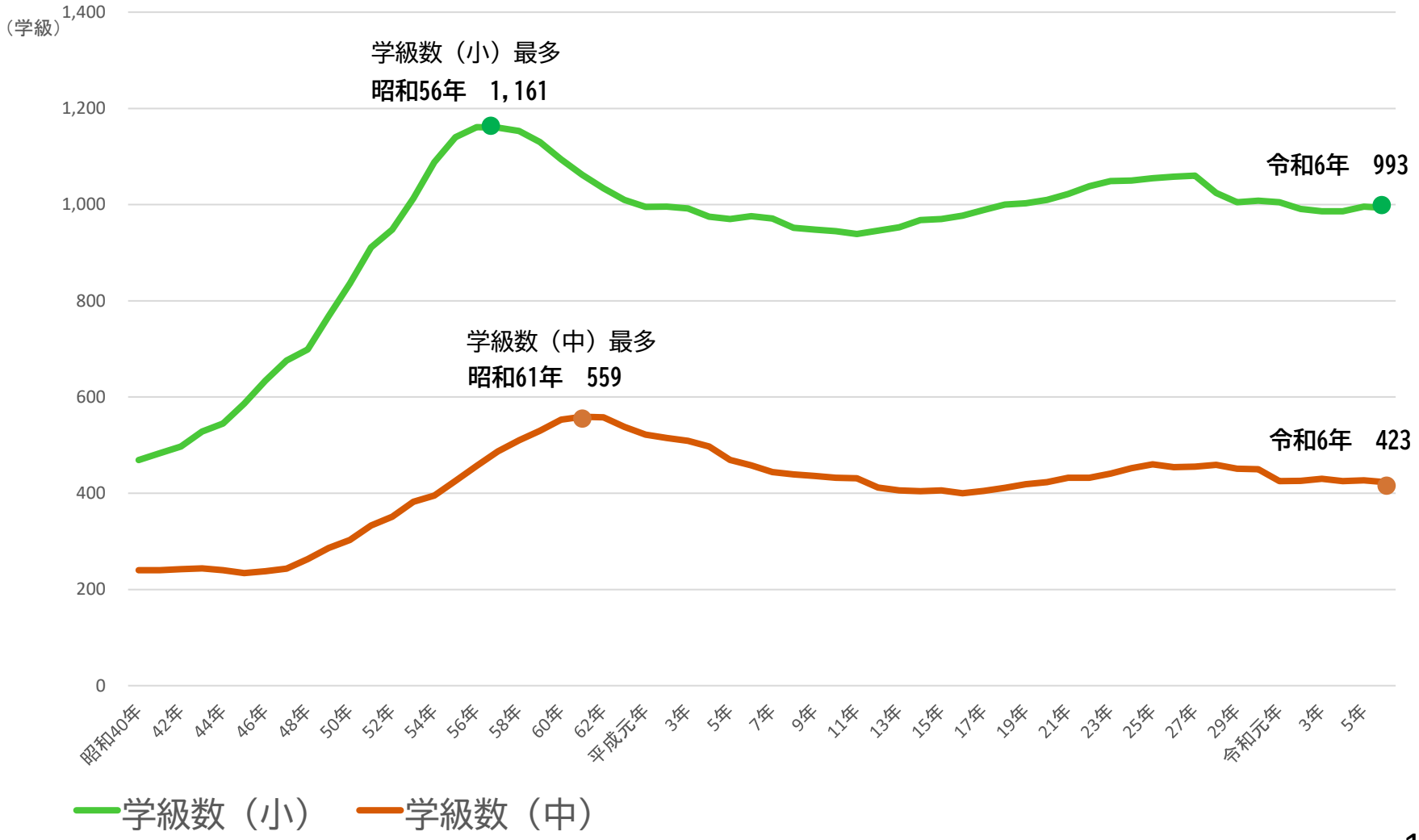
児童(小学生)数は昭和57年、生徒(中学生)数は昭和61年が最多、その後、減少傾向になっている。



※いずみの森義務教育学校前期課程は児童数、後期課程は生徒数に含む

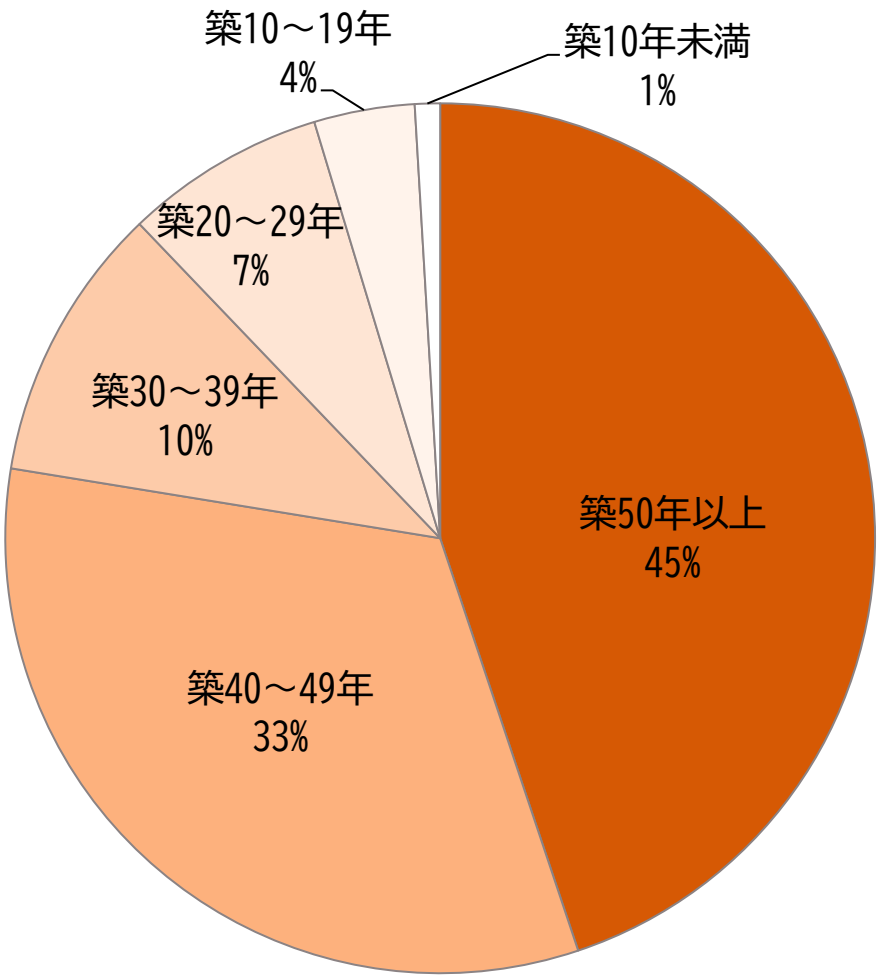
7　現状(学級数の推移)

学級数は、小学校が昭和56年、中学校は昭和61年が最多、その後、減少傾向になっている。



7 学校施設の現状（令和6年度末時点の校舎築年数）

築50年以上の学校が約半数の45%、築40年以上は、全体の3/4を超える78%になる。



区分	令和6年度末現在（校）
築50年以上	48
築40～49年	35
築30～39年	11
築20～29年	8
築10～19年	4
築10年未満	1

7 学級編制の現状(小規模校・複式学級等の状況)

令和7年度 学級編制

No.	小規模校(全学年1学級)
①	中野北小学校
②	長房小学校
③	館小中学校(小学部)
④	恩方第一小学校
⑤	恩方第二小学校
⑥	上川口小学校
⑦	美山小学校
⑧	由木西小学校
⑨	鹿島小学校
⑩	中山小学校
⑪	南大沢小学校
⑫	下柚木小学校
①	館小中学校(中学部)
②	加住小中学校(中学部)

【2学級ある学年が一学年のみ】

No.	準小規模校①
①	第八小学校(4年)
②	加住小中学校(5年)

【単学級学年のある学校】

No.	準小規模校②
①	横山第二小学校(2年)
②	緑が丘小学校(3年)
③	城山小学校(1年)
④	弐分方小学校(1年)
⑤	元木小学校(1年)
⑥	川口小学校(1年)
⑦	由井第二小学校(2年)
⑧	由井第三小学校(2年)
⑨	片倉台小学校(1・6年)
⑩	松が谷小学校(2・3・4年)
⑪	柏木小学校(1・2・3・5年)
⑫	宮上小学校(2年)
⑬	別所小学校(2・4・5・6年)
⑭	上柚木小学校(2・5年)
⑮	長池小学校(3年)
①	南大沢中学校(3年)
②	上柚木中学校(2年)

複式学級(※)の変遷		
令和2年度	美　山 小学校	第2・第3学年
令和3年度	美　山 小学校	第3・第4学年
令和4年度	美　山 小学校	第4・第5学年
令和5年度	上 川 口 小学校	第2・第3学年
	美　山 小学校	第2・第3学年
令和7年度	上 川 口 小学校	第2・第3学年
令和8年度(見込み)	上 川 口 小学校	第2・第3学年
	上 川 口 小学校	第4・第5学年
	恩方第二小学校	第2・第3学年
	美　山 小学校	第2・第3学年

※ 連続する2つの学年の児童の数が10人以下で、かつ1つの学年が5人以下の場合に編制。ただし、第1および第6学年は除く。

学校規模	学校数(いずみの森・高尾山学園を除く。)
～ 11学級	小学校 29校(42.6%)・中学校 25校(69.4%)
適正規模	小学校 34校(50.0%)・中学校 11校(30.6%)
19学級 ～	小学校 5校(7.4%)・中学校 なし

○ 小中学校の適正規模 ＝ 12～18学級

○ いずみの森義務教育学校 ＝ 43学級